opusdei.org

## 年間第7週・土曜日 60子どもの単純さ で

年間第7週・土曜日 60子 どもの単純さで — 幼児の心 と単純さ。 — 信心とキリス ト者の自然さ。 — 単純にな るために。

2024/04/09

年間第7週・土曜日

60 子どもの単純さで

一幼児の心と単純さ。

- 一 信心とキリスト者の自然さ。
- 一 単純になるために。

## 60.1 霊的幼児の心と単純さ

イエスが抱きしめ、祝福するこの子どもたちに、世界のすべての子どもたちだけではなく、すべての人々が表されています。主は、どのようにしてすべての人々が神の国を受け入

れなければならないかを示しておら れます。

イエスは、神の子についての極めて 大切な教えの生き生きとした実例を 提供してくださいます。神は私たち の御父であり、私たちは子どもで す。キリスト者としての私たちの振 舞いは、良い子どもと良い父親との 関係を、どのようにして日々の生活 の中で実現させるかを知ることに要 約されます。神の子の精神は、子ど もがすべてを父親に委ねるように、 天の御父にすっかり頼るという意味 を含んでいます。また、愛すべき摂 理に信頼し、容易に自分を捨てるこ とを含んでいます。その関係は、私 たちが一人では何もできないことを 謙遜に認めることを前提としていま す。また、それは、あるがままの自 分を見せる単純さと誠実さのことで す<sup>2</sup>。

大人のままでいて、子どものようになることは骨が折れるものです。それは神への大きな自己放棄と共に、勇気と意志の強さを要求します。

「霊的幼児の道は、霊的な愚行(ぐこ う)でも〈柔弱(にゅうじゃく)〉でも ない。それは賢明な逞(たくま)しい 道である。この道を歩む人は、その 難しい易(やさ)しさのために、神の み手に導かれて歩みを始め、神のみ 手に導かれて前進しなければならな い」3。霊的幼児の道を生きる決意 をしたキリスト者は、さらに容易に 愛を実行します。なぜなら、子ども は悪意を抱かず、二心(ふたごころ) や欺瞞を知らず、あえて人を騙すこ とをしないからです。キリスト者は 幼児のように、侮辱されても怒ら ず、悪く扱われても仕返しをしませ ん。それよりさらに、主は、敵のた めに祈るように要求します。着る者 に下着や上着を与え、打つ人に他の 頬を向けます。(マタイ5・40参 照) ⁴子どもはすぐ忘れ、不平不満

をためません。子どもは本当の悲し みを持ちません。

霊的幼児は常に新鮮な愛を保ってい

ます。なぜなら、その単純さがあれ ば不条理な体験に留まっていること はないからです。「あなたは若返っ た。神との交わりのおかげで、短期 間に若者の純朴で幸せな頃の状態に 戻ることができたのだった。それば かりか、子どもっぽいことをせずに 霊的幼児としての確信と喜びまでが 蘇(よみがえ)ってきた…。まわりを 見渡すと仲間にも同じことが起こっ ているのが分かる。主に出会ってか ら時が経ち、円熟期に入り、消える ことのない若さと喜びが増してきた のだ。歳が若いからではない、心が 若く喜びに満ちているからである。 内的生活のこのような現実が人々を 惹きつけ、固め、従わせるのであ る。〈若さを喜びで満たしてくださ る神〉に毎日感謝しなさい」⁵。主 は本当に、人生の初め、そして円熟 期や老齢期であってもいつも若いことを喜んでくださいます。私たちが子どものように、いつも助けが必要である幼児たちのように、神のみ前に生きてさえいれば、神はこの現世でいつも私たちにとっては最も大きな喜びなのです。

60.2 神を敬う心のあらわれとキ リスト者の自然さ

教義のしっかりした基礎知識は、聖 母のご絵を一瞥すること、十字架に 接吻をすることにも、意味を与える のに役立ちます。そのうえ、そのよ うな一瞥や接吻は、例えば、十字架 の道行の各場面の前で、私たちが無 関心のままでいないように、愛の行 いに変えるのに役立ちます。まさに このような方法で表される必要のあ る、堅固で深く根ざした信心や本当 の愛を示します。そのとき神は、父 親が、世の中のあらゆる事業を愛す るよりも、自分が愛する子どもを見 つめるように、私たちを優しく見て いてくださいます。

単純で深い信仰であれば、常に、団体であっても個人であっても、人間的、神的に正当な理由のある特別の信心の行いに表します。家族の親密さと教会の愛の内に、世代を超えて伝えられ、キリスト信者の信心の習慣になったものもあります。それぞれの置かれた状況に応じてキリスト

キリスト信者のこうした単純で信者のこうした単純で信をであるれであることであるの表いて、受け入れてのような批判したがでは、ないの国を分れたのはないがでいる。 は、助けを必ずのということ、人間的生活においること、人間的生活においること、人間の生活においること、人間の生活においること、人間の生活においること、人間の生活においること、人間の生活においること、人間の生活においることがである。 は、愛は小さく目立たず表されることを認めようとしません。公平で批評的だが理解も愛もない客観性を持った部外者が見れば、愛の表れは意味がないように見えるのも当然です。にもかかわらず、主の心はどれほど頻繁に、子どもたちと、子どものようになった人々の祈りによって動かされたことでしょう!

使徒言行録は、初代のキリスト者 が、ミサ聖祭を捧げる部屋を照らす ために多くのランプをどのように 使ったか<sup>7</sup>、また、殉教者の墓の上 に燃える小さなオイルランプを置く ことをどんなに好んだかという、明 確な記録を私たちに残しています。 聖ヒエロニムスは、一人の良い司祭 について次のような言葉でほめたた えています。「彼は、聖堂と殉教者 の会堂の両方を、花と葉とぶどうの 蔓(つる)のスケッチで飾りました。 教会の中は、すべてのものが人目に つくように、位置と外観がどうであ ろうと、その司祭の働きと熱意の現れを帯びています」。このような、信心の小さな外的表明は、使われる目的に適した相応しいものですし、私たち人間に自然に馴染んでするものです。人間の本質は、神に指しかけたり、必要なものや望みを相応しく表したりするためには、目えるものの助けを使います。

時には、単純さは大胆さの内にであるにてであるにてでありを人ののないでがあるは、たちは、とれているのでは、とれているのでであるというであるといっても、ののではでいるとのであるとはできれるととととないのでであるとととなった。これではいるであるとはできまればある。に言う方法を知ることはできない。

す。幼児の生活の大胆さは具体的な 決意に表れるべきです。

## 60.3 単純になるために

単純さは、霊的幼児の最も重要なまれの一つです。父親の前で傷つまで傷のようない子どものようない子どものの前でなったりないの子とものでは、神のみ前には、欠からはあがではないではありません。個のではありません。個のではありません。個のではありません。というではあるために生と、最いことを言い表して、霊魂を可いるとなった。私たちは単純であるである。私たちは単純であるでがくまれたちは単純であるである。私たちは単純であるでがくまれたちは単純であるでがくまれたちは単純であるでがくまれたちは単純であるである。

主に対する愛に正しい意向を保っている時には、単純の徳を実行しています。単純さは、私たちが行うすべてのことに、神の栄光と霊魂の善を強く確固とした意志をもって求めるようにし、導いてくれます。本当に神を探し求めるなら、人は何かをし

ようとして当惑に陥ったり、心の中 で複雑になったりしません。並外れ たことを成し遂げようと期待したり しません。ただ、すべきことを行 い、神に向かって良く行おうとしま す。自分の考えていることをはっき り言い、真理を半分だけ言ったり、 習慣的に心の中で疑ったりしませ ん。愚直でも疑い深くもありませ ん。分別はあっても、疑い深くはな いのです。要するに、「蛇のように **賢く、鳩のように素直になりなさ** い」。という主の教えに生きている のです。

この道に従うことによって、友よ、 あなたは主との素晴らしい親しさい 到達するでしょう。イエスの名とになってイエスに呼びかけることを好むように出すことを好むようには り、思い出すことを好むよ生温しまったの生活から姿を消すでであなたは神の朋友になる中で、 う。そして、思い出すことの中で、 神との親しさのうちに、聖書のこれらの言葉を考えることを好むでしょう。「主は、人がその友と語るように、顔と顔を合わせてモーセに語りに行かれた」(出エジプト33・11)<sup>10</sup>。私たちの祈りは、聖母と聖ヨセフと守護の天使により頼んで、その日の経過に従って、償いと感謝の愛の行いの中に表されるでしょう。

聖母は彼女の息子、神の御ひとり子 をどのように知るようになるのか を、私たちに複雑なやり方に頼るの ではなく教えてくださるのです。聖 母が食事の準備をし、家を掃除し、 衣類の手入れをし、イエスがいと高 き御者の子であることを良くご存じ なので、仕事をされながら、深い愛 と信頼、細やかな尊敬をもってイエ スに心を向けられていたのを容易く 想像することができます。聖母はイ エスに自分に必要なこと、他の人々 に必要なことを言い表されました。 ぶどう酒がありません! カナの婚宴 の席でイエスに言います。聖母は 日々の生活を共にする子どもから、 母として期待される小さな奉仕をし ながら、イエスの世話をされたので す。聖母はイエスを見つめ、イエス のことを考えました。これはすべて 完全な祈りだったのです。

私たちは神に愛を示す必要がありま す。教会が与えた礼拝の中の祈りを とおして、ミサ聖祭や、毎日の活動 の雑踏の最中(さなか)に行われる短 い聖体訪問をとおして、ろうそくを ともしたり、神の御母であり私たち の母であるマリアの足もとにいくら かの花を飾ったりすることによって も神への愛を表すでしょう。今日、 御子と親しく接するために、単純で 愛に満ちた心を与えてくださいと聖 母に願いましょう。また、子どもた ちが両親と愛する人たちに見せる溢 れんばかりの信頼を幼い子どもたち から学びましょう。

- 1マルコ10:13-16
- <sup>2</sup> The Navarre Bible, note to Mark 10:13-26参照
- <sup>3</sup> 聖ホセマリア・エスクリバー, 『道』. 855
- <sup>4</sup> St Maximus of Turin, Homily 5 8
- <sup>5</sup> 聖ホセマリア・エスクリバー, 『拓』. 79
- <sup>6</sup> リジューの聖テレジア, Autobiography of a Soul, 10, 41 参照
- 7 使徒言行録, 20:78
- <sup>8</sup> 聖ジェローム, Epistle 6 0, 1 2
- <sup>9</sup> マタイ10:16
- <sup>10</sup> S. Canals, Jesus as Friend

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/TO-VII-do/ (2025/12/13)